

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(12月4日～12月10日)

2023年12月14日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ベラルーシ・中国首脳会談(12月4日、於:北京)
- ベラルーシ・アラブ首長国連邦(UAE)首脳会談(12月8日)
- ベラルーシ・赤道ギニア首脳会談(12月9日、於:マラボ)
- ベラルーシ・ケニア首脳会談(12月10日、於:ナイロビ)

【ルカシェンコ大統領動静】

●中国実務訪問(12月3日、4日)

(1)両国首脳会談

・ルカシェンコ大統領は、ベラルーシは中国にとって信頼できるパートナーであり続けること、中国との友好路線を今後とも堅持すること等を述べた。両国関係で進展していない事項はただの1つもないと強調した上で、今次首脳会談で協議したい唯一の事柄は速さであり、時間があまりにも押しており、我々は時に遅れをとったり間に合わなかったりしている旨発言。また、「一帯一路」イニシアチブ、人類運命共同体への支持を改めて表明。

・習近平・中国国家主席は、ベラルーシがルカシェンコ大統領の強力な指導の下で社会の調和と安定を維持し、経済的な復興と成長を実現し、今後の成長のためのしっかりした土台を据えていると指摘。中国にとって、安定して長期的に発展し続けることは極めて重要とした上で、中国はベラルーシのパートナーとともに、人類運命共同体のため、戦略的な連携を強化する用意がある旨付言。

(2)その他

・スノプコフ第一副首相と劉国中・中国共産党中央政治局委員兼国務院副総理も別途実務協議を実施。

・ルカシェンコ大統領は首脳会談後に北京大学を訪問。今次首脳会談の席上、両国民、とりわけ若者同士での交流強化の必要性が協議された旨言及。両国間の学生の往来をさらに活発にし、中国側が関心を持つ化学・物理・数学等の分野でも協力を構築しなければならない旨述べた。

(12月4日 大統領府)

●ベラルーシ・アラブ首長国連邦(UAE)首脳会談

・両国首脳は、ムハンマド・アラブ首長国連邦(UAE)大統領私邸にて会談。今次会談では、本年2月の会談で合意がなされた様々な分野での協力に関して、プロジェクトの進捗状況につきすりあわせが行われた。

(12月8日 大統領府)

●ベラルーシ・赤道ギニア首脳会談(於:マラボ)

(1)両国首脳会談におけるルカシェンコ大統領の発言

・ベラルーシは、農業・林業・医療等の様々な分野における知見や技術を共有し、人材育成を支援する用意あり。

・赤道ギニアは、アフリカの一致、国際社会におけるアフリカの役割を反映させる方向への国連安保理の改革、アフリカ中部における政治的・経済的連携の深化に積極的に賛成しており、そのような友好国を持てることは極めて大きな栄誉。

・まもなく、マラボでベラルーシ大使館が活動を開始する。2024年末には、駐ベラルーシ・赤道ギニア大使館が開始予定。

・ベラルーシは、赤道ギニアとユーラシアを橋渡しする用意あり。また貴国には、アフリカ連合(AU)やその他の統合機構を通じた支持を見返りとして期待。

・赤道ギニアは、自国内で生産できる可能性のある製品や商品を調達するために外貨を消費すべきではない。

(2)オビアン・ンゲマ赤道ギニア大統領の発言

・我々は現在も、経済面での独立のために戦っている。我々は、他国によって生産されている輸入品を必要と

する限り、経済的に成長することはできない。

・しっかりとした規律を持ってベラルーシと真剣に連携し、友好国ベラルーシから学ばなければならない。

(3) 成果文書

・両国大統領は、2024 年から 2026 年の両国の協力進展に関するロードマップに署名。

・投資保護、租税、税関実務における協力と相互支援、観光分野における協力、教育関連文書の相互承認、科学技術分野における協力等に関する複数の協定や、省庁間での覚書等、15 本の文書に署名。

(12 月 9 日、10 日 大統領府)

●ベラルーシ・ケニア首脳会談(於:ナイロビ)

・ルカシェンコ大統領は、ケニアとの貿易・経済・投資分野での協力への関心を表明。

・また、ベラルーシ・ケニア両国の専門家による部会が相互訪問を重ねて互いの国をよく知り、協力の進展に向けた具体的な行動計画を作成できるようにすることを提案。

・さらに、ルト・ケニア大統領にベラルーシを訪問するよう招待。

(12 月 10 日 大統領府)

【外交】

●ゴロフチェンコ首相一行のウズベキスタン訪問(12 月 4 日、5 日)

・12 月 5 日、ベラルーシ・ウズベキスタン二国間協力に関する政府間合同委員会第 10 回会合を開催。政府間協議会で協議された議題全体を反映した議定書が署名され、貿易・経済協力の現状と展望について、特に産業、農業、医療分野に焦点を当てた協議がなされた。

・同日、ウズベキスタン・ベラルーシ・ビジネスフォーラムが開催。同フォーラムには、ベラルーシの省庁、企業、団体の代表者から 60 名以上が参加。

・同フォーラムの枠内でゴロフチェンコ首相及びアリーポフ・ウズベキスタン首相が会談し、両国が相互にとって主要なパートナーであり、多面的な協力関係が新たな段階に達したことを確認。

(12 月 4 日、5 日 国営ベルタ通信)

●米国及び英国による対ベラルーシ制裁の拡大

(1) 米国による制裁

・12 月 5 日、米国は、新たにシェフツォフ・ベラルーシ赤十字事務総長ら 8 人と、建設機材・道路工事用車両メーカー「アムコドル」、スーパー「カローナ」及び大型ショッピングモール「ザモク」を経営する「タバク・インヴェスト」等 11 の企業に制裁を導入。

・これに対し、グラス外務省報道官は、米国の制裁拡大を非難し、「今回はシェフツォフ氏に対する制裁が目立つ。同氏は人道的活動に従事し、支援を提供し、とりわけ紛争地域の子どものための平穏なベラルーシでの療養を促進している。したがって、ワシントンのこの措置の不愉快さは完全に明白である」とコメント。

(2) 英国による制裁

・8 日、英国は、対ベラルーシ制裁リストを 17 項目拡大し、政治的理由によるベラルーシ人迫害の責任者であるとして、検察官や裁判官らを対象に追加。

(12 月 5 日 米国財務省、ベラルーシ外務省、8 日 英国政府、「ゼルカロ(鏡)」)

●ゴロフチェンコ首相一行のベトナム訪問(12 月 6 日～9 日)

・7 日、ゴロフチェンコ首相は、フンイエン省を訪問し、ベラルーシとの合弁案件である MAZ Asia 自動車製造・組立工場の拡大と、農産品、食品生産・加工工場案件の早期展開のため、同省指導部に環境整備を行っていくよう希望を伝えた。

・8 日、ゴロフチェンコ首相は、チン首相、チョン共産党書記長、トゥオン国家主席らベトナムの要人とそれぞれ会談。

・成果文書として、両国は、原子力安全と放射線防護分野における協力及び情報交換に関する覚書を含む二国間協力文書を締結。

・ベトナム訪問の枠内で、シェスタコフ外務次官がホーチミン市を訪問し、在ホーチミン・ベラルーシ総領事館の開所式が行われた。

(12 月 6 日～9 日 国営ベルタ通信、外務省)

●アレイク外務大臣とシメオン・オヨノ・エソノ・アング赤道ギニア外務・国際協力・ディアスポラ大臣の会

談(於:マラボ)

・計画された経済活動を促進するために、条約・法的基盤を拡大する見通しについて具体的な協議が行われた。

・両国外務大臣は、ルカシェンコ大統領の赤道ギニア訪問を踏まえた共同宣言を採択。

(12月8日 外務省)

【内政】

●中央選挙管理委員会は、国民や企業に対して、議員選挙のための財政支援を受け付ける口座を開設

・同委員会は、集まった資金を選挙文書やポスター、各行政区の選挙管理委員会の後方支援等に充当すると説明している。

(12月7日 中央選挙管理委員会)

●人権団体「ヴァスナ」は、本年11月に少なくとも101人が政治的理由で有罪判決を受けた可能性があると指摘

・このうち、確実に判決を受けたことが判明しているのは22人。

(12月8日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

●12月8日現在の政治犯の数は1,484人

(12月8日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

●当局は、国外退去を余儀なくされた民主勢力の財産を大量に差し押さえる

・11月には、民主勢力の「調整評議会」及びその他の組織に対し、130件以上の搜索、145件の財産差し押さえ命令が出される等、民主勢力に対する抑圧が強まっている。

(12月9日 「ゼルカロ(鏡)」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(12月4日～12月10日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも18人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも51人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも62人を阻止。

(12月5日～12月11日 Pozirk)

【経済】

●政府は、2024年1月1日以降の1月あたりの最低賃金を626ベラルーシ・ルーブル(約198米ドル相当)と規定

(12月4日 ベラルーシ政府)

●経済省は、過去約30年でベラルーシ国民の所得が5.5倍増加し、実質賃金が6.9倍増加したと発表

(12月4日 経済省)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の米国訪問(12月4日～8日)

・イェール大学を訪問。

・ワシントンを訪問していたキャメロン英外務大臣と会談。

・12月6日～8日、ワシントンにて、ベラルーシ・米国戦略的対話の枠組みにおける交渉を実施。ベラルーシ側からは、「統一移行内閣」、「調整評議会」、人権団体「ヴァスナ(春)」、独立系経済シンクタンク「BEROC」等が参加し、人権問題、政治犯の釈放、ベラルーシ人の査証や移民等の問題につき協議。

(12月11日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

●国際オリンピック委員会(IOC)は、ベラルーシ人選手の2024年のパリオリンピックへの中立の立場での参加を承認

・本件に関して、ベラルーシ・オリンピック委員会は、「2024年パリ大会へのベラルーシ人選手の参加を歓迎するが、今回の決定はベラルーシのスポーツ界の欲求を十分に満たすものではない。国家のシンボルなしでの大会への参加、予選大会の数の制限、団体競技に出場する選手の資格がないことなど、依然として厳しい制限はすべて、我が国の選手に対する極めて差別的なものである」とコメント。

(12月8日 国際オリンピック委員会(IOC)、9日「ゼルカロ(鏡)」)

(了)